

審査委員会報告書

(課程博士用)

報告番号	甲 第 1508 号	授与年月日	平成 2024 年 3 月 10 日
学位	博士 (看護学)		
氏 名	生 年 月 日	昭和 52 年 7 月 4 日 生	
	氏 名 (国 籍)	西村 美里	
論文題目	認知症高齢患者と認知症看護専門家の服薬-与薬場面における相互行為の特徴		
主論文冊数	1 冊		
審査委員会委員	<div>(氏 名)</div> <div>主査 北里大学 教授 眞茅 みゆき</div> <div>北里大学 教授 岡 澄子</div> <div>北里大学 教授 香取 洋子</div> <div>眞茅 印</div> <div>岡 印</div> <div>香取 印</div>		
論文内容要旨 審査結果の要旨 試験結果の要旨	別 紙 1 別 紙 2 別 紙 3		
審査委員会の意見	審査の結果、博士 (看護学) の学位を授与できると認める。		

【注】 1. 報告番号、学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審査後に研究科において記入する。

2. 国籍は、外国人のみ記入する。

受付
24.2.16
北里大学
看護学部

看護学研究科

審査結果の要旨

審査対象者 西村 美里

認知症患者数の増加や認知症看護の複雑さ、多様性から、老人看護専門看護師や認知症看護認定看護師による質の高い看護の提供が求められている。認知症患者の看護は、患者と看護職との相互行為と捉えることができ、相互行為のあり様を明らかにすることは、効果的な看護実践のあり方に重要な示唆を与える。本研究では、与薬場面における認知症高齢患者と認知症看護専門家との相互行為を明らかにするために、ビデオ撮影と参加観察により収集した与薬場面のデータをエスノメソドロジックの相互行為分析し、合わせて、回顧的シンクアラウド法により与薬場面の振り返りに関するデータを収集しプロトコル分析が行われた。その結果、与薬場面での相互行為には『与薬の開始部』『認知症高齢患者が薬剤を口腔内に入れてから認知症看護専門家が嚥下を確認するまでの部』『与薬の終了部』からなる全域的構造組織が存在し、「修復」とよばれる相互行為に関連する場面から、看護師が応答する相互行為により、患者が現実とは異なる体験下にあっても内服行為を達成できることが提示された。

本研究結果は、看護師による認知症患者への服薬援助に示唆を与えるものであり、今回の研究の限界として示された内容を踏まえ、さらなる研究を蓄積することにより、認知症患者の服薬援助の質の向上が期待できると考えられる。また、本研究が、看護学研究における回顧的シンクアラウド法という研究手法の適用例になり、従来の観察法だけでは明らかにできない現象へのさらなる適用が期待できる。

予備審査時に指摘された点は十分改善されていることが確認されたが、研究の意義、回顧的シンクアラウド法によるデータ収集方法ならびにプロトコル分析についてより具体的に記述すること、研究の限界と今後の課題について修正することが求められた。

以上より、学位審査委員会では、看護実践の向上に意義を有し、看護研究の発展に寄与する研究であると評価することから、指摘された点を修正し再提出することを条件に、本論文は博士（看護学）の学位授与に値するものと認める。

試験結果の要旨

審査対象者 西村 美里

上記の論文提出者に面接し、論文内容および関連事項について試問をおこなった結果、合格と判定した。

よって、博士（看護学）の学位を受けるに十分な能力を有すると認めた。